

# 琉球大学学術リポジトリ

## 研究室紹介（県農業試験場化学部土壌保全研究室）

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017181">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017181</a>

## 県農業試験場化学部土壤保全研究室

土壤保全研究室は沖縄県における土壤分類や土壤の基本的な諸性質の解明、主要土壤（島尻マーヅ、国頭マーヅ、ジャーガル）の改良、地力増進対策試験、土壤侵食防止対策試験、不良土壤の改善および土壤障害に起因する作物の生育障害対策等に関する試験を行う。現在、当研究室では2本柱で研究を推進している。すなわち、土壤保全対策事業と公害防止プロジェクト研究（農耕地からの細粒赤土流出防止技術の確立）である。

### I. 農林水産省補助による土壤保全対策事業である。

各県統一された課題及び調査方法により、同一の試験を行い、定点を設けて長期にわたる土壤の理化学的変動を自然的小および人為的な影響との因果関係を把握し、適切な土壤管理作業を明らかにする試験課題と、堆肥や肥料の過剰投入による環境への影響を軽減するための、各県独自の課題による対策を行う試験課題がある。以下は土壤保全対策事業の課題の具体的な説明である。

#### 1. 土壤環境基礎調査

1). 定点調査—220地点の定点を4ブロックに分け、5年毎に土壤調査を行い、土壤の理化学的変動を明らかにし、適切な土壤管理の対策指針を策定する。

2). 基準点調査—ジャーガルにおける土壤管理方法の違いが、経時的な変化に伴い作物収量や土壤の理化学性に及ぼす影響を把握し、適切な土壤管理方法を解明する。

#### 2. 環境保全型栽培基準設定調査

1). レタスに対する緑肥作物の効果

3土壤型で栽培試験を行い、堆肥に替わる有機物として緑肥を鋤き込み、窒素施用削減の可能性を検討する。

#### 3. 環境保全型土壤管理対策推進事業

1). 高塩類客土材の分布および改善対策

中南部に広がるジャーガルの母材であるクチャ（島尻層群泥岩）に多量のNaを含む層があり、それを客土したために農業上大きな問題が生じているので、その層の分布調査および改善対策試験を行う。

### II. 公害防止プロジェクト研究

環境庁予算を農林水産技術会議が受け、九州農業試験場長を主査とするプロジェクト研究として、「亜熱帯地域での農地からの細粒赤土流出防止技術の確立と海洋生態系への影響解明に関する研究」が発足した。農耕地側の研究課題の具体的な説明は下記の通りである。

#### 農耕地からの細粒赤土流出防止技術の確立

九州農業試験場の土壤特性研究室、生産管理研究室、作業システム研究室の3研究室と、沖縄県農業試験場の当研究室、機械研究室、蔗作研究室を含む3研究室で共同研究を行っている。試験地は宜野座村で、作物はパインアップルとさとうきびを対象としている。資材、残査マルチ、カバークロープの複合利用と斜面下部への牧草の植生帯設置、および土壤破碎による圃場浸透性の向上や、ミニマムティレージ等による赤土流出防止対策試験を6研究室で有機的に連携しあっている。

( 亀 谷 茂 )



○写真1 土壤調査風景



○写真2 土壤侵食防止対策試験